

研究課題：かかりつけ歯科医による実地的な産業歯科保健活動の構築に向けて

研究者名：井手玲子¹⁾、今里憲弘²⁾、木下俊則³⁾、山本良子⁴⁾、東 敏昭¹⁾

所 属：¹⁾ 産業医科大学産業生態科学研究所、²⁾ 福岡県歯科医師会、³⁾ 糸島歯科医師会、
⁴⁾ 日本予防医学協会九州センター

研究協力者：(福岡県歯科医師会) 外城康之、石田昌嗣、佐竹幸雄、山口章、北村哲朗、折田秀一、
坂本文比古、藤田和宏、長澤一利、杣島俊作、林邦治 (糸島歯科医師会) 足立宗久、
仁位義輝、江頭修作

【目的】産業保健活動は一定の既存のプログラムをそのまま適用するというより、むしろ各々の企業に則した方法で継続的に取り組むことが基本である。そこで、産業歯科総論、実習も含めたメンタルヘルス講習会、産業歯科保健活動の現場見学からなる研修会を企画し、歯科医師会会員から構成されたコアメンバー（研究協力者を含む本研究研究者）に話題として提供する。それをもとに、歯科医師が日常の診療業務の傍ら、企業のかかりつけ歯科医としてどのように活動に取り組むことが可能か、またその価値を見出せるのかをコアメンバー自身で検討し、実現可能性の高い今後の指針を見出すことを、今回の研究の目的とする。

【研修会実施の流れと概要】

<第一回研修会>

産業歯科保健総論に関する講演とメンタルヘルス講演と実習を、1 日で実施。産業歯科分野は歯科医師にとって特別な領域ではなく、就業者の現状を理解し抱えるニーズを把握することは日常診療のキーコンセンサスを形成することになるというコンセプトで内容を構成。また、歯科医師の関与が必要な特殊健康診断や労働衛生コンサルタント資格の取得を紹介。加えて、産業保健現場で喫緊事項であるメンタルヘルス関連の講義と実習を組み入れた。

<第二回研修会><平成 20 年度成人歯科保健講習会 主催 福岡県歯科医師会>

歯周病ならびにその生活習慣病との関連についての講演、成人歯科保健の疫学研究に関する講演、およびグループワークを 2 時間半で実施。本講習会は福岡県歯科医師会により、毎年 1 回継続して実施されている。参加者は、企業の健康管理担当者（医療職・事務職）、歯科専門職（歯科医師、歯科衛生士）など職種横断的である。特徴としては、講習会に積極的にグループワークを取り入れていることである。この結果、一方向性の講演会では得られない相互理解の場所となっている。

<第三回研修会>

長期間継続して歯科保健事業を実施している企業を訪問し、職場見学、当該事業所の歯科専門職を含む担当者の講演、参加者の体験談の拝聴、グループワークを 1 日で実施。かかりつけ歯科医としての視点からの講演概要は、以下の通りである：展開されている歯科保健事業はヘルスプロモーションの概念とも合致したものであり、そこからの気づきは日常の診療業務にも反映されており、企業との関わりおよび歯科予防に対する専門家以外の視点に触れることは、歯科医院来院者のみならず自身も含めた歯科医院全体のエンパワーメントに繋がっている。

【考察】

産業歯科保健の必要性の認識がある公衆衛生活動に近い歯科医師でも、具体的な活動のイメージや企業へのアプローチになると取りかかりにくい分野であるとの声が多かった。総括の今後の産業歯科保健活動のあり方に関してのグループワークにおいて、人材育成（キーパーソン）・コミュニケーション・企業、従業員、歯科専門職の立場でのメリットのバランスなど、歯科保健を包括的に捉えたキーワードが提示され、産業歯科を含む成人歯科活動にも広く通じる内容となっていた。一連の研修会を通じて、研究参加者間では歯科医師会およびかかりつけ歯科医として取り組むべき産業歯科保健活動の方向性のコンセンサスを得ることができたのではないかと考える。職域は社会医学的・予防医学的視点で歯科医師が社会的責任を果たすべく重要な場面である。経済的インセンティブなど産業歯科保健活動の活性化には課題も多いが、今回の研究成果が今後の地域の産業歯科保健活動に還元されることを期待したい。